編集者のことば

今回の論文は、高齢者・障害者の交通に関する論文５本、高齢者・障害者の災害に関する論文４本と第17回の公開講演会によって構成されている。特集は「高齢者・障害者の交通と災害」のテーマとした。高齢者・障害者の交通対策は、わが国の場合1980年代から始まり、2000年に制度ができた交通バリアフリー法を経て現在がある。災害については、1980年代の調査から高齢者の被害が大きいことがわかっていたが、社会的に顕在化したのは阪神淡路大震災以後かと思われる。以上の問題を踏まえて高齢者・障害者の交通と災害の問題を特集とした。

特集の高齢者・障害者の交通に関する５本の論文の内容は、政策研究として、秋山他が欧米と日本の高齢者・障害者交通に関する政策の展開を示し、沢田他がより細かく記述したカナダの論文がある。さらに、本田他は2000年に制定された交通バリアフリー法に規定されている基本構想がどのように展開されているかについて東京都を中心にその後の動きと評価について書いたものである。吉田他は過疎地域のモビリティ問題に着目してその実態を明らかにした。新谷他は積雪時の歩行者転倒事故を観測等も含めて実態を整理し、雪国では転倒が大きな問題であることを示した。

特集の災害に関する論文は板橋区の密集市街地を対象とし障害者・高齢者に避難をどのように考えるかの観点から３本の研究が行われた。山口他は障害者の避難に関して通信システムを用いて実証実験を行った。その結果、避難した経路は通行可能、避難できずに戻った経路は通行不能ということを他の人に知らせる双方向型の通信システムを構築した。新田・勝野他は避難所生活に関する問題点と課題を高齢者等に対するインタビュー調査から明からかにした。木村他は市街地の避難困難者の出現率と道路閉塞がどの程度避難困難となるかをシミュレーションにより行った。岩楯他は地震防災に役立つ地震観測システムの構築とデーターベース作成の実践型の論文を論述した。

バス交通計画は区市町村の交通計画が不十分なまま進んでおり、将来の地域交通を見据えた計画が不可欠であることは言うまでもない。公開講演会の「バス交通計画のチャレンジ」では秋山が地域交通計画の考え方とデマンド型の交通を紹介し、中村がバス計画における多様なアプローチを示し、加藤が市民を中心に捉えたバス計画を論じた。これにより、新しい地域交通の枠組みをどのように考えればよいかについて議論した。

2005年３月

秋　山　哲　男